

本音インタビュー

静岡理工科大学長

野口 博氏

県内大学で初 建築学科新設

県内の大学で初めての建築学科(仮称)を2017年4月、理工学部の新設する。建築分野を志す若者を地元で育て、防災・減災対策などで需要が高まる建設業界に人材を送り出す。

―新設の経緯は。
「地域に貢献する大学として何が不足しているかを考え、当初は医療工学など他の学科も設置候補に挙がっていた。文部科学省の調

専門人材育て地域貢献



のぐち・ひろし 東京大大学院工学系研究科修了。2014年4月、静岡理工科大の第5代学長に就任した。専門分野は建築構造など。69歳。

査によれば、工学分野で土木建築工学は電気通信工学、機械工学に次いで3番目に学生数が多い。ところが県内に建築を総合的に学ぶ学科はなく、高校生は県外の大学に進学している状況だった。都市環境やインフラを市民と一緒につくっていくことは、私たちが目指す『地域に開かれた大学』そのもの。昨秋には建築学科に絞り込み、教員確保などに動き出した」
―建築は自身の専門分野でもある。学びで重視することは。
「何よりも経験値が必要だ。定員を50人に設定して実験・演習中心の少人数制教育を行う。領域は大きく分けて都市・建築設計、建築技術、建築デザインの三つ。教員は9人を配置する。学生数に対して多く、経営的には割に合わないが、建築は学生一人一人の面倒を

見ることが欠かせない。9人のうち2人は女性教員。女子学生の増加にも期待したい。かつて勤めた千葉大の建築学科は45%が女子学生だった」

―学科新設に伴って新校舎も建設する。
「鉄骨造4階建ての構想。天井の一部に県産材を使用する。1階には地域連携の拠点となるイベント実施空間も設ける。環境にも配慮して年間のエネルギー消費量の目標値を設定する。完成後は校舎が消費するエネルギー量と生み出すエネルギー量を常時計測して、限りなくプラスマイナスゼロに近づける。校舎そのものが教材になる」

―新学科に期待することは。
「県外で学ぶより、静岡の風土や建物を土台に研究していくことで愛着が生まれ、地元への就職につながる。静岡は暮らしやすい一方で、地震や津波などさまざまな災害が想定されている。耐震や制震、免震設計などを中心に学んでほしい。市民にとっては身近なインフラや町並みに関する相談ができるようになる。大学として地域に対する開かれ

方の『幅』も広がるはずだ」
(聞き手)袋井支局・木村祐太